

釜無川施設野菜地域の施肥改善

「総合技術普及センター」



施肥例：抑制キュウリ

●現地研修会

肥料・資材名	成分含有率(%)			施用量 (Kg/ 10a)	改善後			改善前		
	N	P	K		成分量(kg/10a)			成分量(kg/10a)		
					N	P	K	N	P	K
新釜無川有機配合	6	1	3	100	6.0	1.0	3.0			
旧釜無川有機配合	6	6	8	100				6.0	6.0	8.0
菜種粕	5	2	1	100	5.0	2.0	1.0	5.0	2.0	1.0
スイマグ				25	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
牛糞堆肥	1.7	1.6	1.7	375	0.7	1.2	2.0	0.7	1.2	2.0
計					11.7	4.2	6.0	11.7	9.2	11.0

南アルプス市と中央市の釜無川を挟んだ施設野菜地域は、長年にわたるトマト、キュウリの連作により土壌の養分バランスが崩れ、燐酸や加里が過剰な状況にあります。

一方、近年の肥料価格の高騰により、農業経営への影響が懸念されており、土壌の養分バランスの改善に加え肥料コストの低減が急務となっています。

そこで、農業技術センターは、JA全農やまなし県本部、JA中巨摩東部、JAこま野、肥料メーカーと連携し、これまで利用してきた「釜無川有機配合肥料」を見直し、燐酸と加里の成分を低減させた、新たな有機配合肥料を試作し、現地実証を進めてまいりました。

秋冬収穫となる抑制栽培から冬春収穫となる半促成栽培にかけ実証を行なった結果、各作型、品目とも従来の

配合肥料と比較して生育差はなく、栽培後の土壌養分バランスは改善に向かう傾向にありました。また、肥料コストも10%以上の低減となりました。

現在栽培されている抑制栽培のトマト、キュウリから、新しい「釜無川有機配合」が本格的に導入されており、施肥改善やコスト低減に向けた取組みの一助となっています。



日本一の中山間(ふるさと)をめざして...

第3回 やまなし農業・農村シンポジウム開催

- 日時／平成22年11月21日(日) 午後1時30分～(開場1時)
- 会場／公立大学法人・山梨県立大学池田キャンパス講堂
- 内容／

基調講演

「農と食から地域の活性化を考える」

小泉武夫・東京農業大学名誉教授

入場無料

県(てい)談(だん)

「安心できる農産物づくりと販路拡大に向けて」

小泉武夫・東京農業大学名誉教授

菅原文太・俳優、農業生産法人「(株)竜土おひさまの里農園」代表
横内正明・山梨県知事

- 申込方法／申込期間

平成22年10月1日(金)～11月5日(金)

事前の申込が必要です。県内農務事務所や市町村窓口等に9月下旬配布予定のチラシ裏面にある参加申込書に必要事項を記入のうえ、FAXまたはメールでお申込みください。先着順にて定員500名になり次第締め切りとさせていただきます。

- お申込み・お問い合わせ先

山梨県農政部耕地課

電話・055-223-1626 FAX・055-223-1624

Eメール:kouchi@pref.yamanashi.lg.jp